校長室から

ひがしなら通心

（Ｈ３０年度）　茨木市立東奈良小学校　川上　隆　Ｎｏ．１８

平成３０年７月２日（月）発行

七夕（たなばた）伝説

７月７日は七夕です。各地で七夕を祝う催しが行われます。学校や幼稚園・保育所でも、子どもたちがきれいな飾りを作り、短冊に願い事を書いて、笹の枝に飾ります。どうして、七夕には、願い事を書いたりするのでしょうか。

七夕の伝説には、世界各国に伝説や風習があるようです。特に織姫（おりひめ）と彦星（ひこぼし）の伝説が有名です。織姫は布を織る仕事の名人で、



彦星は牛使いの名人です。二人は結婚してから、これまで一生懸命していた仕事を放り出し、二人で遊んでばかりいたので、とうとう天帝によって天の川の両側に、離ればなれにさせられてしまいました。それを二人があまりに悲しんでいたので、１年に一度、七夕に二人が会うことを許されたという伝説です。

この話は星座にもつながりがあります。織姫はこと座のベガ、彦星はわし座のアルタイルという星です。夏の夜空にひときわ輝く二つの星の間には、天の川がゆったりと流れているように見えます。みなさんも夜空をじっくり眺めて、この星を探してみてください。

また、日本にはもともと七夕（しちせき）という秋の豊作を祈る神事が行われていました。女の人が何日もかけて丁寧に織り上げた織物を神様にお供えする催しです。この布を織る機械を棚機（たなばた）と呼んでいたのでこの日を「たなばた」と呼ぶようになったとも言われています。

布を織る技術は、とてもむずかしく繊細で根気が必要です。一生懸命取り組んで作った布は貴重です。それに、すばらしい技術を身につけた人がこの名誉ある役割を担ったに違いありません。織姫や彦星も技術や産業などの仕事に関係しています。七夕には、豊作を願い、産業の発展を願う思いが込められているのだと思います。



みなさんも七夕に願いを込めて、自分の力をさらに磨いてほしいと思います。

そして、勉強やスポーツなど、たくさんの場面で活躍できるといいですね。

ある新聞記事より

読売新聞６／２８朝刊より

（第３種郵便物認可）

新聞読む習慣 学力高く

学テ分析 保護者アンケート調査

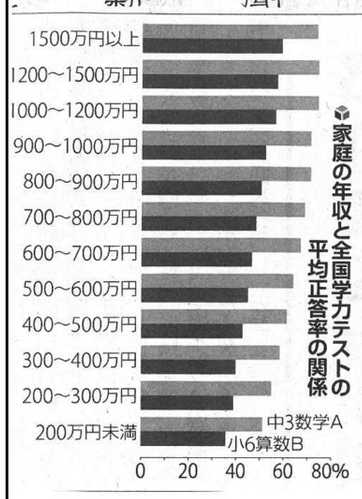
文部科学省は27日、約14万人の保護者を対象に実施した子供の学力に関する調査結果を発表した。保護者が規則的な生活を送らせ、本や新聞を読むように促している子供は、保護者の年収や学歴が低くても、学力が高い傾向がうかがえた。２０１３年に初めて行った前回調査と同様、保護者の年収や学歴が高いほど、学力が高い傾向があった。

調査は、浜野隆・お茶の水女子大教授らのグループが実施。昨年4月に小学6年生と中学3年生約203万人が受けた全国学力テストの結果と、抽出した約1850校の保護者のアンケートを合わせて分析した。

家庭の年収と学力の関係では、「1500万円以上」と「200万円未満」の子供の国語、算数・数学の平均正答率は、小6で15～23ポイント、中3で12・3～22・7ポイントの差があった。親の学歴が高いほど平均正答率も高い傾向がみられた。

一方、年収と両親の学歴を指標に子供を4グループに分け、年収などが最も低いグループで正答率の高い子供にも着目。親が「計画的に勉強するよう」生活習慣を整えたり、「小さい頃、絵本の読み聞かせをした」など文字に親しむよう促したりした割合が高かった。

また、意欲、忍耐力など「非認知スキル」は、特に小6で学力との関係がみられた。経済状況にかかわらず、「努力の大切さ」を伝えることなどで、学力が上がる可能性があるという。



ひ とつにみんなでまとまろう！	あ いさつができる子
が くりょくと体力をのばそう！	い っしょうけんめい勉強する子
し っかりせいかつしよう！	う んどうが好きな子
な かよく友だちとすごそう！	え がおでやさしい子
ら んらん夢に向かう東奈良っ子！	お そうじをがんばる子

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」　ロン･クラーク　草思社

ルール４０　横入りをしてはいけない

人が並んでいる列に横入りをしてはいけない。ただし、横入りした人に文句をつけて大さわぎするのはもっといけない。

●だれかがきまりを破ったからといって、大声を出して言い争ってさわぎたてるのはよくないことだ。周囲に迷惑をかけないよう、おだやかに話し合って解決しよう。